

国際物流戦略チーム 課題検討ワーキンググループの取り組み報告

課題検討ワーキンググループの取り組み状況

目的

大阪湾を世界一便利な国際物流拠点とする上で課題となっている事柄をはじめ、その他の様々な課題についても近畿地区全体にわたり改めて再抽出、再整理を行い、海外での先進事例も参考にしつつ、その解決に向けた施策・方向性を提案することを目的に設置。

国際物流戦略チームの学識経験者を中心とした関係者が参画し、機動的・集中的に調査・検討を行うとともに、その結果について、国際物流戦略チームに対し、具体的な提案を行う。

取り組み状況

H18.10-12 ユーザーヒアリング
国際物流に関する新たな課題の発掘

H18.12.27 第1回WG
国際物流に関するユーザーからの意見・課題の議論

H19.1.18 第2回WG
ユーザーからの意見・課題の整理
新たな検討施策のイメージの議論

H19.2.8-11 海外調査
上海、香港、深圳の港湾空港を調査

H19.2.13 第3回WG
今後推進すべき施策のイメージの取りまとめ

H19.3.2 国際物流フォーラムの開催
新たな提言について議論

構成員

黒田 勝彦	神戸市立工業高等専門学校長
上村多恵子	ロジスティクス経営士
林 克彦	流通科学大学商学部教授
喜多 秀行	神戸大学工学部教授
本田 豊	立命館大学政策科学部教授
辻本 勝久	和歌山大学経済学部助教授



海外港湾空港の戦略調査

目的

我が国が中国の成長を最大限に取り込むためには、円滑な貿易と障壁のない効率的な国際物流体制の構築、および臨海部に高付加価値型の国際物流産業の立地を誘導することが必要である。今回の海外視察では、中国における国際物流への取組みを調査し、我が国臨海部がアジアのゲートウェイとして果たすべき役割について把握することを目的とする。

日程

平成19年2月8日（木）～2月11日（日）

調査先

上海洋山港、深圳港、香港港、香港国際空港

メンバー

WG委員（黒田先生、上村先生、林先生、本田先生、辻本先生）

他事務局

視察・ヒアリング先

①2月8日

上海

- ・上海洋山港
- ・中国港湾協会
- ・日通中国室

②2月9日

上海

- ・SIPG（上海国際港務集团有限公司）

香港

- ・香港国際空港
- ・全日空

③2月10日

深圳

- ・YICT（塩田国際コンテナターミナル）

香港

- ・郵船航空

④2月11日

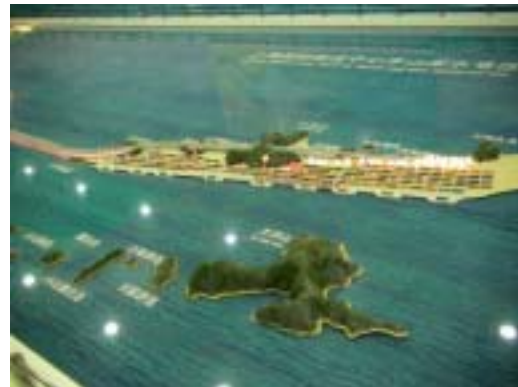
香港

- ・MTL（Modern Terminal Limited）

調査事例から学び取るべき点

- ・迅速な決定、実行
 - 経営環境の変化に即、対応
 - 顧客（船社）オリエンテッド
- ・広域的な港湾管理（上海港の場合）
 - 一方で激しい港湾間競争（寧波港に対して）
 - また、深圳と香港の場合や、深圳各ターミナル間で激しい競争
- ・港湾背後地にロジスティクス施設（制度も含め）を整備 物流園区
 - 日系企業が活用し、国際的なロジスティクス体制を構築
- ・民間企業の活力を利用したターミナル整備
- ・ターミナルオペレータによる効率的オペレーション

- ・経済、物流の発展段階に留意する必要
 - 急速な経済発展、物流量拡大に対し、物流施設が不足



洋山港第1期、第2期の模型



香港空港
スーパーターミナル1の場内



塩田国際コンテナターミナル
（YICT）



概要

「国際物流戦略チーム」では、国際物流の効率化を通じた関西経済の活性化を目指し取り組みを進めるとともに、新たな施策の検討・立案を進めている。

今般、国際物流戦略チームにおける検討成果について、広く一般に報告するとともに、国土形成計画などの新たな動きも踏まえながら、専門家の方々に議論をいただき、更なる国際競争力強化について考えることを目的として開催。

日時・場所

平成19年3月2日(金) 14:30～17:00

ハイアット・リージェンシー・オーサカ リージェンシーボールルーム (大阪市住之江区南港北)

参加者 約260名 (プレス10社)



構成

- ・基調講演 「国土形成計画と国際物流」 小野 憲司 国土交通省国土計画局 計画官
- ・報告1 「国際物流戦略チームの取り組みについて」 国際物流戦略チーム事務局(片桐 正彦 近畿地方整備局副局長)
- ・報告2 「海外港湾空港の戦略調査～上海・香港・深圳～」 林 克彦 流通科学大学商学部 教授
- ・報告3 「環日本海交流における舞鶴港の可能性」 三橋 郁雄 (財)環日本海経済研究所 特別研究員
- ・報告4 「地域資源を活かした日高港の活性化に向けて～紀州材・大連・日高港」 吉田 擴 御坊商工会議所 会頭
- ・総合討論 テーマ「広域連携を通じた国際競争力強化」
総合司会：黒田 勝彦 神戸市立工業高等専門学校長
(黒田学校長欠席のため代理：片桐 正彦 近畿地方整備局副局長)

主な内容

< 総合討論 >

- ・ 関空の完全24時間化を活かした航空貨物の推進、国際物流拠点の構築、2期島内の用地を活用した総合物流拠点の構築、アジアゲートウェイとしての航空規制緩和とコスト削減を行い、関空の利用促進をすべき。
- ・ 高度な物流施設の整備など、港湾ロジスティクスハブを実現する「産業競争力強化ゾーン」の設置を提案する。
- ・ 港湾管理者の統合を前提とせず、大阪湾があたかも一つの港として機能するような、ポートオーソリティーという旗を掲げて取り組んでいくべき。
- ・ 港の競争力強化に向けては、その港の優位性を引き出すべき。特に舞鶴港においては、モノとヒトの流れ両面から国際フェリーの就航に向けて取り組むべき。
- ・ 国際物流に関する研究機構を関西に設置し、関西における国際物流の司令塔の役割を果たすべき。
- ・ 大阪湾諸港の港湾管理者が連携して、共同ポートセールスを実施すべき。
- ・ 関西での国際物流に関する研究機構は、単なるシンクタンクではなく、実行もするThink & Do タンクを目指すべき。
- ・ 大阪港において、コンテナヤードが足りていない。夢洲への「産業競争力強化ゾーン」の整備に大いに期待する。